

南砺市民病院が有する教育・研修機能について

1 先進地域医療総合医育成プログラム及び総合診療専門研修プログラム

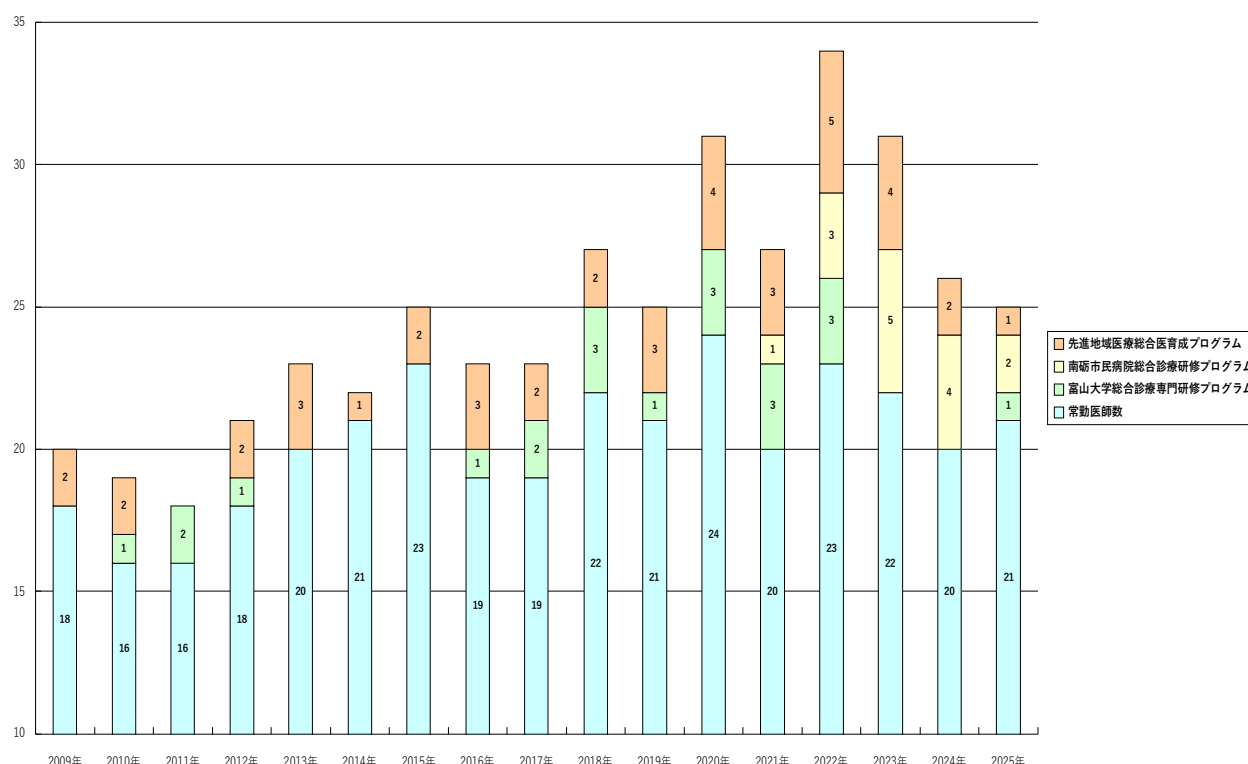
(1) 経緯

平成16年4月に新医師臨床研修制度が開始され、医学部卒業後の2年間の臨床研修が必修化されました。それまでの医師養成は、医学部卒業後に大学医局へ所属し、大学から各医療機関へ医師が派遣される仕組みが中心でしたが、新制度の導入により、研修医が自ら研修先を選択する仕組みへと大きく変化しました。このことにより、大学病院以外の医療機関においても、初期臨床研修医を受け入れ育成することができる体制の整備が求められるようになりました。南砺市民病院では、先進地域医療総合医育成プログラムを設置し、平成21年から初期臨床研修医の受入れと育成に取り組む、教育体制の構築を進めてきました。

また、将来的な専門医の不足やへき地医療の維持・継続等に対応するためには、総合診療医の存在が不可欠になるとの考えから、大学病院の総合診療専門研修プログラムの協力施設として総合診療医の育成にも積極的に参画してきました。その結果、地域医療を支える医師を育成するとともに、常勤医師の確保にもつながってきました。さらに、近年では、大学病院からの医師派遣が必ずしも安定しない状況もみられることから、南砺市民病院独自の総合診療専門研修プログラムを立ち上げ、大学と連携しながら、総合診療医の育成と確保を図ってきました。

こうした教育・研修機能は、単に南砺市民病院のためだけではなく、地域医療を担う医師を育成し供給する役割を果たしており、南砺市民病院が他の医療機関と差別化できる大きな病院ブランドともなっています。

医師常勤医数及び初期研修医数、総合診療専門研修医数推移（2009-2025）



(2) 成果

① 医師確保への貢献

南砺市民病院は、平成21年度から初期臨床研修医を受け入れ、その後は総合診療専攻医の育成にも取り組むことで、継続的な医師確保につなげてきました。

研修医は院内で研鑽を積むだけでなく、診察などを通じて医師を支え、医師が働きやすいチーム医療環境を構築します。そうした医療提供体制は医師にとって非常に魅力的であり、新たな医師確保や、研修医が研修期間修了後に同院に戻られることに繋がっています。現在の同院内科部長や医員は、当時同院の研修を受けられた方です。

② 地域医療を支える人材の育成

研修医や専攻医は、外来・病棟・救急・在宅医療など幅広い診療に携わりながら成長してきました。特に、総合診療専攻医については、高齢者医療や在宅医療など地域医療の中心的な役割を担う人材として育成されており、地域医療を支える力となっています。

③ 病院全体の医療の質の向上に貢献

研修医や専攻医を受け入れるためには、指導体制や教育体制の整備が必要です。症例検討会やカンファレンス、指導医研修などを継続して行うことで、若手医師だけでなく病院全体の診療レベルの向上にもつながっています。

④ 富山県全体の地域医療への貢献

南砺市民病院で学んだ医師が県内各地で活躍するなど、同院は、地域医療を担う医師を育成する拠点としての役割も果たしてきています。

(3) 今後の見通し

① 総合診療医育成の重要性はさらに高まる

南砺市では高齢化が進んでおり、複数の病気を抱える高齢者や在宅療養患者への対応がますます重要になります。そのため、地域全体を診ることができる総合診療医を育成する役割は今後さらに重要になると考えられます。

② 医師を育てる病院が選ばれる時代になる

今後、大学からの医師派遣はさらに厳しくなることが予想されます。そのため、「医師を派遣してもらう病院」ではなく、「医師を育てる病院」であることが重要になります。また、教育体制が充実した病院は大学にとっても医師を派遣しやすく、継続的な連携につながります。

③ 救急・手術機能を含めた教育・研修環境が求められる

先進地域医療総合医育成プログラムや総合診療専門研修プログラムでは、救急医療や急性期医療、手術症例などを経験できる環境が求められます。研修医や専攻医に選ばれる病院であり続けるためには、こうした経験ができる教育・研修環境を維持することが重要です。

④ 将来の医師確保の強みとなる

研修機能を維持・発展させることで、医師育成、医師確保、指導医育成、地域医療人材の確保という好循環が生まれ、地域医療を持続させるための重要な強みとなることが期待されます。

(4) 懸念事項

救急機能・手術機能を南砺中央病院に集約する場合、こうしたプログラムも移設することになります。研修医や専攻医の育成には、診療に加えて指導や評価、面談、プログラム運営などが必要であり、指導医や事務職員の負担は少なくありません。文化の異なる新たな環境でこうした環境を再構築するには、移設先の病院内での膨大な業務の調整が必要となることが見込まれ、短期間で現在と同等の病院ブランドを再構築することができないリスクやその魅力やこれまでの実績が十分に継承されない場合には、医療人材の確保やへき地医療を含む地域医療提供体制に深刻な影響を及ぼすリスクが懸念されます。

2 看護師特定行為研修

(1) 経緯

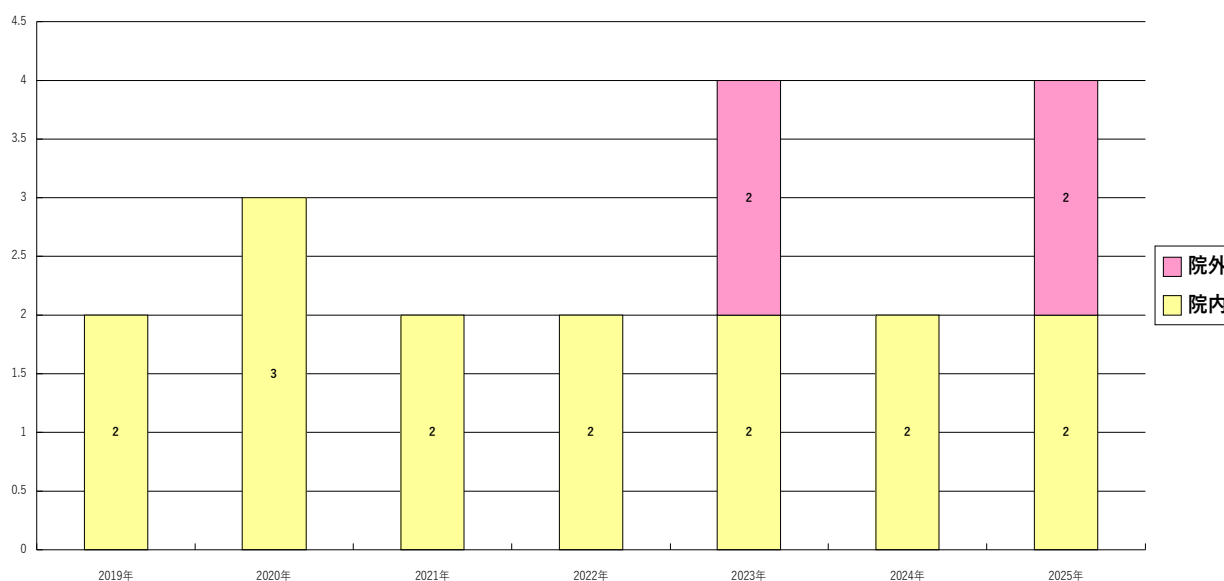
団塊の世代が後期高齢者となり、医療・介護需要の増加が見込まれる中、地域医療を支える看護師の育成を目的として、平成27年10月に看護師特定行為研修制度が開始されました。この制度は、あらかじめ医師が作成した手順書に基づき、研修を修了した看護師が一定の医療行為を実施できるようにするものであり、医師と看護師がより効果的に連携しながら患者へ迅速な医療を提供することを目的としています。

南砺市民病院では、平成31年2月に厚生労働省から「看護師特定行為研修指定研修機関」の指定を受け、同年4月から研修を開始しました。

南砺市民病院には、複数の疾患を抱える高齢患者が多く入院しており、病状変化への早期対応や重症化予防が重要となっています。特定行為研修を修了した看護師は、高度なアセスメント能力を活かし、患者の状態変化を早期に把握するとともに、医師との円滑な連携を図ることで、安全で質の高い医療の提供に貢献しています。

また、南砺市民病院は、南砺市訪問看護ステーションと連携し、入院から在宅まで切れ目のない医療・看護を提供しています。特定看護師は、病院内だけでなく、訪問看護や在宅医療の現場でも活躍しており、地域包括ケアシステムを支える重要な人材となっています。

看護師特定行為研修修了者推移（2019-2025）



(2) 成果

高齢化の進展に伴い、複数の疾患を抱える患者や医療的管理を必要とする患者が増加しており、特定行為研修を修了した看護師の役割はますます重要となっています。南砺市民病院では、特定行為研修の指定研修機関として継続的に人材育成を行っており、近年では、在宅領域区分が取得できる県内で唯一の指定研修機関となっており、院外からも受講希望に関する問い合わせや、受講者が増加しています。また、研修を受講するだけでなく、修了後に実際の臨床現場で特定行為を実践できる環境が整っていることが南砺市民病院の看護師特定行為研修の大きな特徴です。

① 看護師の確保に貢献

こうした教育環境に魅力を感じ、他施設から南砺市民病院へ入職する看護師もみられ、特定行為看護師の育成に留まらず、看護師の確保に大きく貢献しています。

② 医師のタスクシェア・タスクシフトに貢献

さらに、特定看護師が高度なアセスメント能力を活かして患者の状態変化に早期対応することで、医師とのタスクシェア・タスクシフトが推進され、医師の働き方改革への対応にも大きく貢献しています。

3 総括

これまで南砺市民病院では、初期臨床研修医、総合診療専攻医、看護師特定行為研修受講者の育成を通じて、地域医療を支える人材の確保と育成に取り組んできました。これらの教育・研修機能は、単に教育を行うためのものではなく、将来の医師や看護師の確保、医療の質の向上、地域医療の維持につながる重要な役割を担っています。今後、医師や看護師の確保がさらに難しくなることが予想される中、医療人材を育成できる環境を維持することは、地域医療を持続させるための重要な強みとなります。特に、救急・急性期医療から在宅医療まで幅広い経験ができる教育環境は、研修医、専攻医、特定行為研修看護師にとって大きな魅力となり、人材確保にもつながります。

そうした中、南砺中央病院に手術機能等を集約することに伴い、これらのプログラムを移設することとなった場合には、再構築に多くの調整が生じます。研修プログラムはその病院環境の中で長い時間をかけて育まれてきた生き物であり、形式的にその機能を移設すれば同じものが作れるというわけではありません。現在の南砺市民病院が持つこれらのブランド力については、引き続き同院において維持・強化していくことが望ましいと考えます。

南砺市民病院の教育・研修プログラムの移設に係るリスクについて

	先進地域医療総合医育成プログラム	総合診療専門研修プログラム	看護師特定行為研修
1 プログラムの概要	医師免許取得後の若手医師が2年間かけて内科・救急・外科など幅広い診療を経験し、「地域医療の最前線で求められる、より高度で実践的な能力」を身につけることを目指したプログラム	地域医療や患者の多様な健康課題に包括的に対応できる「総合診療医」を育成するための研修プログラム	熟練した看護師が、医師の指示を待たずに、手順書に基づいて特定の医療行為（特定行為）を行えるようになるための研修制度
2 救急機能や手術機能との関係	救急機能や手術機能を持つ病院での研修が不可欠	救急機能や手術機能を持たない病院でも研修が可。ただし、手術機能等を有する病院には多様な症例が集まることから、より幅広い経験を積むことができ、研修の質向上や医療人材の確保という観点から有利であり、手術機能等の集約先に設置することが望ましい。	
南砺市民病院に手術機能等を集約する場合	移設不要	移設不要	移設不要
	【リスク】 移設が不要のため無し		
南砺中央病院に手術機能等を集約する場合（1） ※手術機能等を集約する南砺中央病院にプログラムや研修機能を全て移設	移設必要	移設が望ましい	移設が望ましい
	【リスク】 ① これまで積み上げてきた実績、ネットワーク、指導体制、研修環境などの無形資産は、簡単に他院で再現できるものではなく、移設先で現在と同等の研修ブランドを短期間に再構築することは極めて困難です。 ② 研修プログラムが一時的にでも途絶え、あるいは移設・再構築されたとしてもその魅力や実績が十分に継承されない場合には、「優れた研修医を輩出している」という実績が、さらなる優秀な研修医を惹きつけるという好循環が失われ、魅力的な研修プログラムとしての評価を失う恐れがあります。 ③ その結果、南砺地域において、医師・看護師などの医療人材が定着せず、十分な医療人材が確保できないことになれば、ドクターカーの運用、地域診療拠点の運用といった、現在の南砺市民病院が担っている地域医療の根幹を支える体制に直接的な影響を及ぼし、地域住民への医療提供体制が脆弱化する深刻な事態を招く可能性があります。		
南砺中央病院に手術機能等を集約する場合（2） ※手術機能等を集約する南砺中央病院に先進地域医療総合医育成プログラムは移設するが、それ以外のプログラム等は南砺市民病院に残す	移設必要	移設しない（南砺市民病院に置いたまま）	移設しない（南砺市民病院に置いたまま）
	【リスク】 南砺中央病院に手術機能等を集約する場合（1）と同様のリスクが考えられる。	【リスク】 ① 指導医等の多くが手術機能を集約した南砺中央病院へと異動し、多くの症例を含めた研修環境が南砺中央病院に整うなか、プログラムのみを南砺市民病院に残しておくことは、指導体制、研修の一貫性、教育資源（人材や設備）、魅力面から考えても明らかにデメリットが多いものと考えられます。 ② 現在の南砺市民病院の研修プログラムは、同院に手術機能等が存在し、入院から退院まで一貫した「切れ目のない研修」が行える環境が整っていることに加え、長い時間をかけて医療従事者が築き上げてきた院内での協力体制の上に成り立っています。研修の場が分散し、こうした結びつきが弱まれば、指導体制の弱体化、研修の一貫性の欠如、教育資源の不足等によって研修プログラムの魅力が損なわれ、応募者減少を招く最も大きなデメリットとなります。	